

### ロボット力学特論(状態推定編)

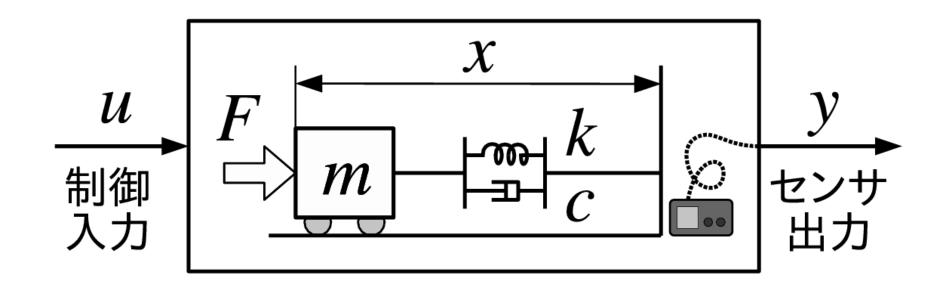
# ガイダンス

宇都宮大学大学院工学研究科機械知能工学専攻 吉田 勝俊

## 授業の背景(第1章)

「状態推定とノイズの小話」

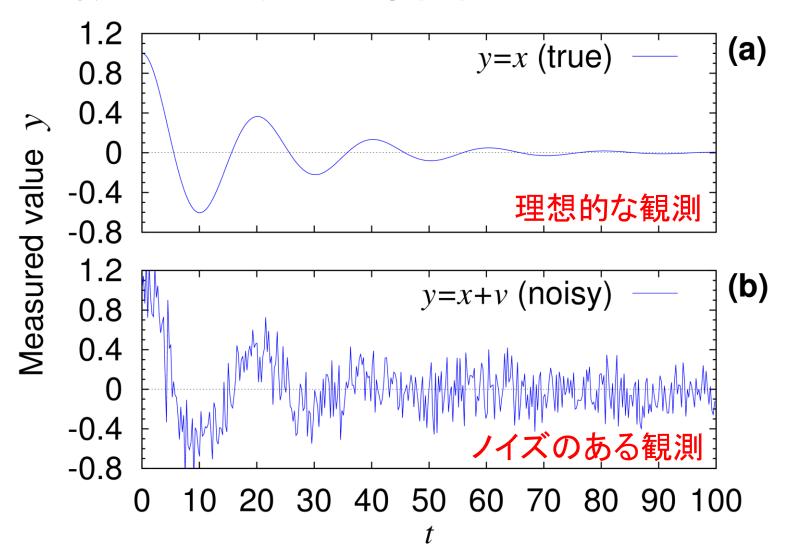
### 観測誤差のある制御系 1/3



- 状態量  $x = (x, \dot{x})$
- 観測量 y = (1,0)x = x

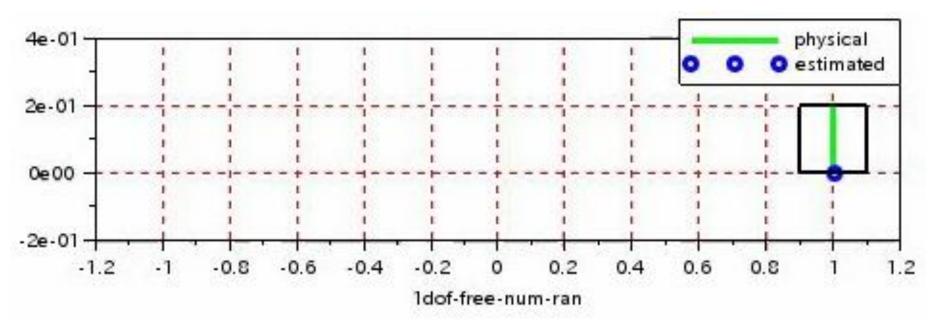
※変位のみ

### 観測誤差のある制御系 2/3



## SITY

### 観測誤差のある制御系 3/3



- ■収束が悪い
- 微分制御  $u(t) = -K\dot{x}$  で改善したい!
- ■しかし、観測は変位のみy = x



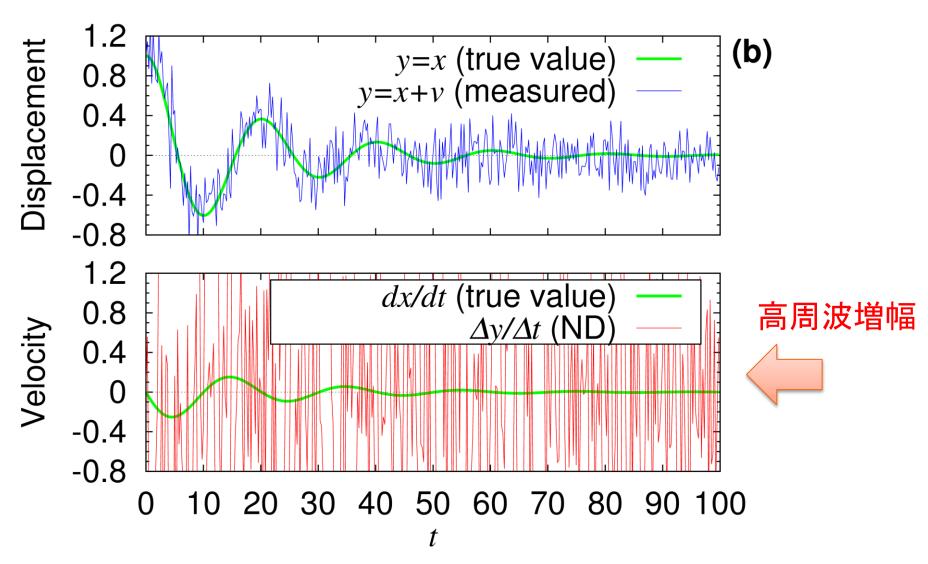
### 数値微分による速度推定 1/2

■ 観測量 y(t) = (1,0)x(t) = x(t) ※変位

$$\dot{x}^*(t_i) = \frac{\Delta y}{\Delta t} := \frac{y(t_i) - y(t_{i-1})}{\Delta t} \quad \Delta t \text{ はサンプリング間隔}$$

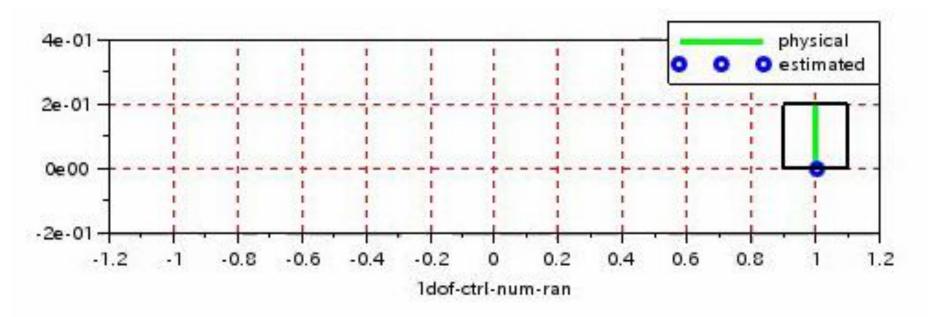
■ 数值微分制御  $u(t) = -K\dot{x} \approx -K\dot{x}^*$ 

## 数値微分による速度推定 2/2



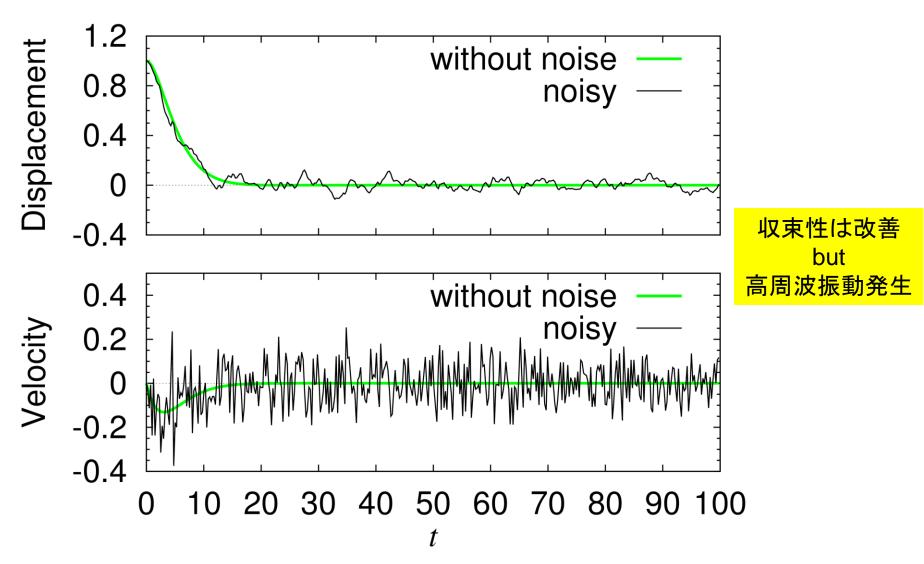


### 数値微分による速度推定 制御結果 1/2

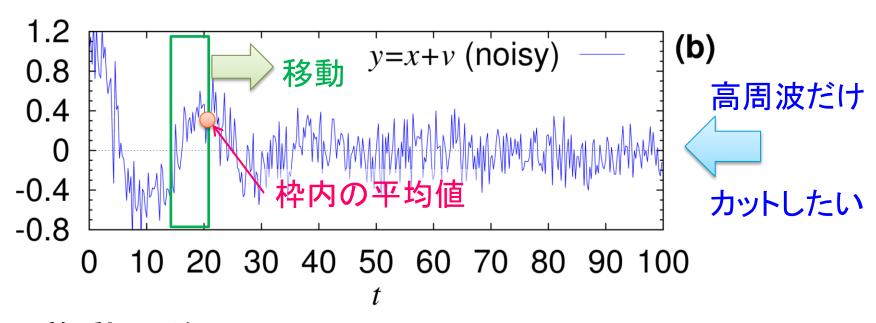


- 激しく振動. 安定しない.
  - :数値微分制御  $u(t) = -K \frac{\Delta y}{\Delta t}$  が暴れてる

### 数値微分による速度推定 制御結果 2/2



## 移動平均による瀘波 定義

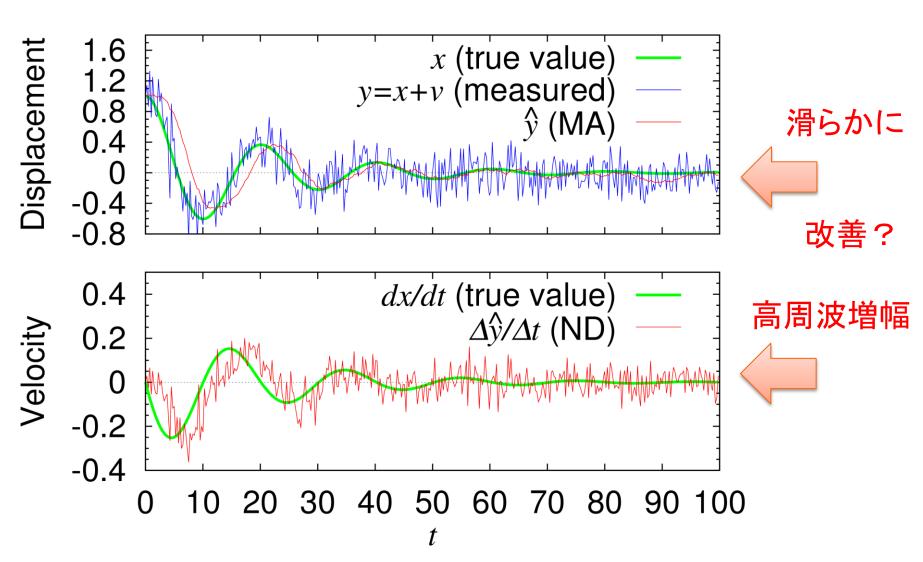


### ■移動平均

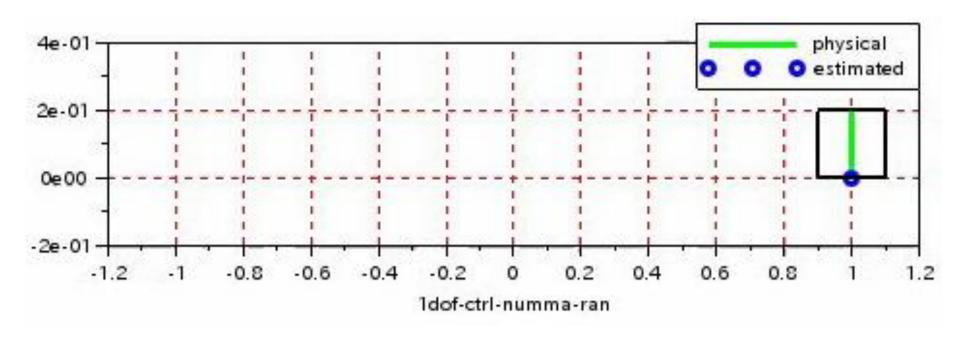
$$\overline{y}(t_i) := \frac{y(t_{i-s+1}) + \cdots + y(t_{i-2}) + y(t_{i-1}) + y(t_i)}{s}$$

(過去から現在までの平均)

## 移動平均による瀘波 結果

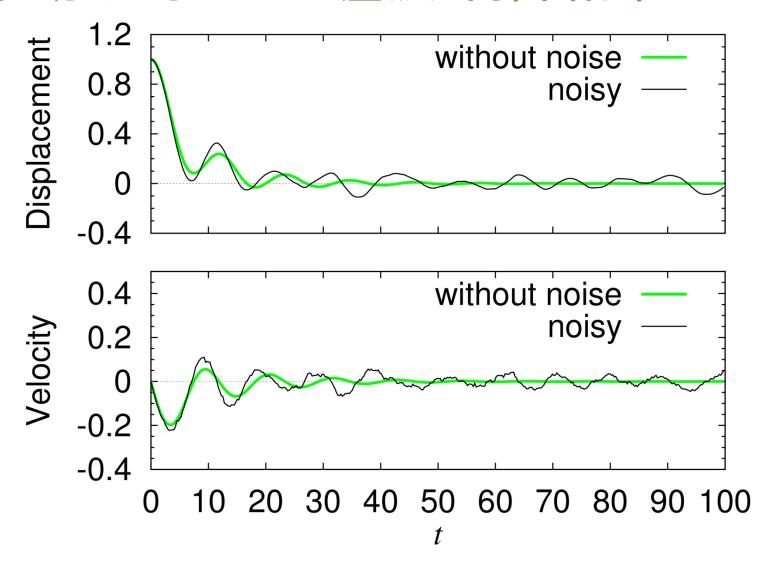






- ■激しい振動は解消
- ゆらぎ幅は増大 → 改善効果はイマイチ

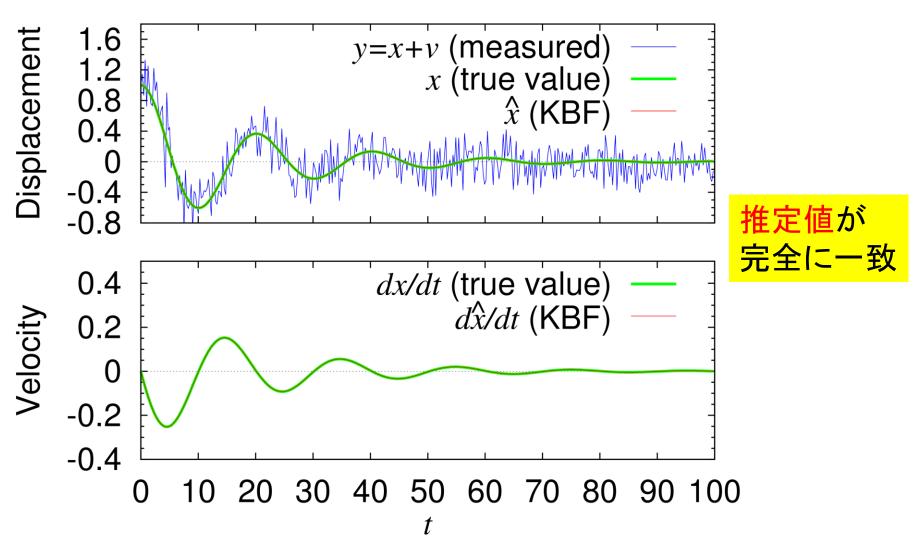
### 移動平均による瀘波 制御結果 2/2



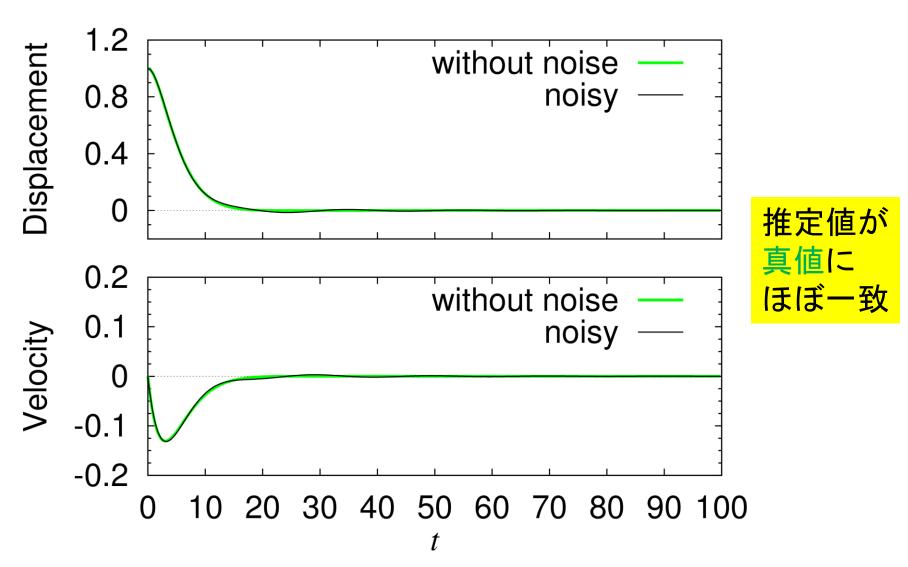
# 現代確率論による(驚くべき)結果

初等的なデータ解析(四則演算)では実現できない

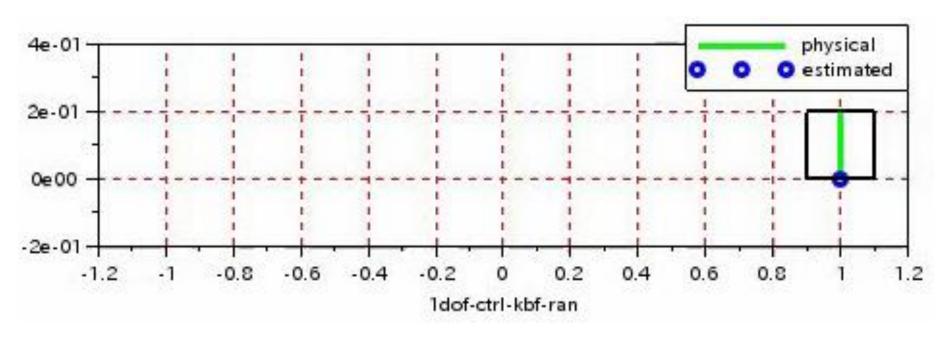
### Kalman-Bucy フィルタによる瀘波



## Kalman-Bucyによる瀘波 制御結果 1/2



## Kalman-Bucyによる瀘波 制御結果 2/2



- 推定値が真値にほぼ一致.
- 良好な制御結果. なぜこんなに上手くいく?
  - →現代確率論を駆使したから

### 学習目標と履修方法

- ■「Kalman-Bucy フィルタ」を学ぶ
  - □ 使い方だけでなく, 導出法から学ぶ

#### ■ 学習内容:

- □ 現代確率論の初歩(Kolmogorov, 1933)
- □ 最小二乗法による確率変数の推定
- □ Kalman フィルタによる状態推定とLQG制御

### ■ 成績評価

- □輪講. 担当内容のレポートを提出(要点・誤植訂正)
- □ 初等的な質問は、吉田研の学生へ(丸谷など)



### 目次

### ■ 第1部 現代確率論

2章 確率空間

3章 ランダム現象の例

4章 確率分布

5章 多変数の確率分布

6章 期待值

### ■ 第2部 推定論

7章 確率ベクトルの変換

8章 推定問題と直交射影

9章 確率ベクトルの推定

### ■ 第3部 カルマンフィルタ

10章 確率過程

11章 カルマンフィルタ

12章 LQG制御

13章 応用例

### サポートサイト

### ※ググればヒット 「ロボット力学特論」



テキストの ダウンロード